

生活と政治をつなぐ情報紙

生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.271

2014.4.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

■発行 東京・生活者ネットワーク
■〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274
■Eメール tokyo@seikatsusha.net
■ホームページ http://www.seikatsusha.me
■発行責任者 西崎光子
■定価 年間1000円・1部100円
■郵便振替口座 00130-3-18417

ネット ●練馬 4月13日(日)告示、
20日(日)投票の練馬区議会議員補欠選挙に、
新人のやない克子を擁立予定
●東京 脱原発フォーラム 脱原発社会の創造—いま、市民として取り組むべきこと
4月13日(日) 10:00~17:30 日本教育会館一ツ橋ホール 脱原発政策大綱とエネルギー基本計画/立地自治体の経済と原発依存からの脱却/福島の実状から脱原発の未来を創造する/まとめの討論 参加費1500円・学生等1000円 主催:実行委員会
●西東京 30周年記念集会「市民政治のバトンをつなげて」 4月19日(土) 13:30~15:45 コール田無多目的ホール 寸劇「それはごみ問題から始まった」/講演「子どもが真ん中のまちづくり」:永田陽子さん(臨床心理士)/アピール
●府中 学習会「秘密保護法」で原発推進・戦争準備 「市民が主権者」を否定して、安倍政権が目指す社会は…? 4月19日(土) 13:30~16:00 ルミエール府中第2会議室 講師:海渡雄一さん(弁護士) 資料代300円
●目黒 ドキュメンタリー映画「もったいない」上映会 5月11日(日) 10:00~13:00 目黒区役所2階大会議室 参加費:大人600円、高校・大学生400円、中学生以下無料 主催:目黒地域協議会

地域包括ケア—基盤強化を急げ!

■在宅医療・介護の充実で、超高齢社会を豊かに—立川発

「このまま、うちで死にたい—
—苦しい息で母が言った」、Sさんが話してくれた言葉だ。
親の介護は突然やってくる。介護する体制を整えることや、介護される立場を受け入れることは簡単ではない。Sさんの場合、母親が自宅で終末期を迎えられるようケアマネジャーや担当医に伝え、関係機関との調整を探索など準備を始めたが、不安はぬぐえない。
介護保険開始から14年。介護の社会化は進んだが、「その人らしく生きるための自立支援」「選べる介護サービス」という制度の目標達成は、未だ道半ばである。
折りしも国は、社会保障と税の一体改革で、包括的、継続的ケア体制の構築を打ち出し、施設中心の医療・介護から、住み慣れた生活の場で医療・介護サービスを提供する「地域包括ケアシステム」の基盤強化へと方針を転換。なかでも、地域福祉の拠点「地域包括

西武立川駅前にて活動報告をする、立川市議員いなはしゆみ子(右)と立川・生活者ネットワーク政策委員の谷山きょう子



立川・生活者ネットワーク市議会議員・いなはしゆみ子

施設中心から在宅へ
地域ケア会議を連携拠点に
支援センター)には、「地域ケア会議」の開催などを通じて、在宅ケア実現のための推進力となるべく明確に位置づけた。
すでに立川市では、市域6カ所にある地域包括支援センターのうち3カ所に「地域福祉コーディネーター」を配置するとともに「包括センター運営協議会」を設置。基幹型地域包括支援センターを中核に各包括センターごとに、行政各課や専門機関の参加を得て「地域ケア会議」を運営している。また、各地域包括支援センターが調整する「個別支援会議」への要支援者本人の参加や、保健所・障害福祉課など別の行政課も参加することによる対応の広がりが見られる。他、「業務別協議会」「介護専門員連絡会」「地区民生委員連絡会」や「地域福祉市民フォーラム」「市民ボランティア」などの協議ネットワーク化が進行。在宅療養・在宅ケアを可能とする地域の見守りネット

在宅ケアからまちづくりへ 見守りネットワークを広げる

立川市の10年後の人口は、17万5千人と減少する一方、65歳以上の高齢者人口は4.2ポイント上昇し、約25%を占めると推計されている。市は現在、来る「立川市第4次長期総合計画(2015年)」を始め、「高齢者福祉介護計画」「地域福祉計画」「障害者福祉計画」「地域保健医療計画」と個別計画も策定過程にある。立川・生活者ネットワークは、これら計画の策定が多様な市民の参加で行われ、かつ来る超高齢社会を豊かに支えるための具体策すなわち「医療と介護の連携強化」「認知症対策の推進」「住まいの整備」「予防・日常生活支援」「サービスの質の確保」などを実現に向けてるべく力を尽くしたい。

あんでな

地元で、みんなで、電気をつくろう 「市民のエネルギーひろば・ねりま」始動! 渡辺由美子

「市民のエネルギーひろば・ねりま」は、原発に頼らない社会やエネルギーのしくみを考え、活動する市民の集まりです。「『原発』都民投票」の活動を通じて出会った仲間たちが、課題を引き継ぎながら地元で新たな動きをつくるために立ち上げました。再生可能エネルギーの普及などをキーワードとする《新しいエネルギー政策》はどうすれば実現するのか。その道筋を多くの市民とともに考えるために昨年開催した連続講座「市民がつくるエネルギー政策」が、このほどブックレット『地元で電気をつくる本—市民発電所でエネルギーが変わる』(ぶなのもり刊)として刊行されました。ヨーロッパですでに始まっているエネル

ギーシフトの動き、日本各地で立ち上がっている市民参加の地域エネルギー事業、そして「世田谷みんなのエネルギー」や「環境NPOエコメッセ/元気力発電所」など市民発電所の実践報告を内容とする全三回の講座が収録されています。

ブックレットは一般書店のほか、多くの人に気軽に手にとってもらえるよう練馬区内外のカフェやギャラリーなどにも販売を委託しています。また、連続講座をきっかけに「(仮)練馬に市民発電所をつくる会」設立準備会も発足し、小平など先行する市民発電所の見学会も始まりました。

「原発はいらない!」と声を上げるだけでなく、原発に頼らない暮らしや社会を自分たちの手で実際につくっていく手がかかりとしてブックレットを活用しながら、《エネルギーの未来》をとものに拓いていきたいと願っています。

[市民のエネルギーひろば・ねりま:メンバー]



地元で
電気を
つくる本

▲連続講座第3回「みんなでつくろう!市民が主役のコミュニティ発電所」ワークショップの様子。昨年12月15日▲連続講座から生まれたブックレット。地域から市民が電気をつくるノウハウが満載! http://enehiro-nerima.jimdo.com/